

2022年2月4日

濃厚接触者の待機期間短縮に向けた 科学的検討及び検査体制の抜本拡充を求める緊急要請

立憲民主党新型コロナウイルス対策本部

新型コロナウイルス「オミクロン株」の感染が全国的に急拡大している。重症者等も刻々と増加しており、病床の使用状況もひっ迫の度合いを強めている。また、感染拡大に起因する社会経済活動の停滞が長期化することによって、多くの方々の暮らしはさらにその厳しさを増している。

政府は、「最悪の事態」を想定した十分な準備を怠ってきたと言わざるを得ない。ワクチン3回目接種はいまだ全国民の約4.0%で遅々として進まず、検査に必要な機器・体制も不足している。その結果、今般の急激な感染拡大を食い止めることができず、濃厚接触者を長期間自宅待機にすれば、社会機能の維持が困難になるという切迫した事態が生じている。

感染拡大を防ぎながら、必要な社会機能を維持することが求められており、緊急避難的に濃厚接触者の待機期間の短縮も検討する必要がある。社会機能の維持のためやむを得ないとはいえ、待機期間を短縮すれば感染拡大のリスクも高まる。このような事態を招いたのは、岸田政権の失政と言わざるを得ない。

社会機能の維持が困難となる事態は間近に迫っており、以下の項目を早急に行うよう強く要請する。

記

1. エssenシャルワーカーに限り、検査で陰性であれば5日目で解除されることとなった濃厚接触者の待機期間について、エssenシャルワーカーに限定せず、その対象を一般に拡大することの必要性や安全性について、早急に専門家の意見を確認すること。
2. 濃厚接触者等が迅速確実に検査を受けることができるよう、十分な検査キットを確保するなど検査体制を拡充すること。
3. 検査体制を充実したにもかかわらず、各地で濃厚接触者でさえ検査が受けられない状況になっていることについて、なぜそのような事態になったのか速やかに検証し、今後の対策に生かすこと。

以上